

私の役目



教育随想

名古屋音楽大学特任教授
山本みよ子 氏

日本に西洋音楽を普及させるため、文部省が「音楽取調掛り」を置いたのが明治十二年。その三十二年後の明治四十四年に、政財界要人の呼びかけで帝国劇場が設立され、歌舞伎部と歌劇部の養成所ができる。この帝国劇場での公演が日本人による初のオペラ公演となった。

しかし、経済的に立ち行かなくなった歌劇部は解散。教育を受けたオペラ歌手たちは、外国に行く者と日本で歌う者に分れた。日本で歌う者たちが芝居小屋等を集まり、あの「浅草オペラ」が開花し、一世を風靡した。「藤原歌劇団」を創立した藤原義江は、浅草オペラにデビューした後、イタリアに留学)ところが、大正十二年の関東大震災で一瞬にして全滅。たった六年間の命であったが、西洋音楽とオペラを日本人の心に馴染ませた。

その後、それまでの日本のオペラを「第一期」と考える東京音楽学校(現東京芸術大学)出身の四人が、オペラ団「二期会」を創立した。(最初はクラブ活動のような形だったと聞いている)三宅春恵、川崎静子、柴田陸、中山悌一である。私の歌の師匠は、その三宅春恵。実に三十年以上、御指導をいただいた。三宅は、八十歳でリサイタルを開催し、BS放送(NHK)でもコンサート(の全てが大々的に放送された。とても師匠を越すことはできないと承知してはいるが、せめて師匠に負けない気概をもって、私の役目を果たしていこうと思っている。

(1)



平成26年8月1日
8月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面	
教育随想	1
名古屋音楽大学特任教授 山本みよ子氏	
この人に聞く	2
山下食品代表取締役 山下 将生氏	
羅針盤	2
翔南中学校長 加藤 政幸	
ふれあい	3
矢作西小 梅村奈津子	
特集	4
市民の生活を守る ～岡崎市消防本部の活動～	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
オリンピック開催記念大運動会 (昭和39年)	
この本を	8



人に聞く



食でつながる 人とつながる

山下食品代表取締役
山下 将生 氏

ひんやりとした作業場に入ると、微かに納豆の匂いがする。中心に据えられた大きな釜には、昭和四十年の創業以来、頑なに手作りにこだわり、守り続けてきた納豆と家族の歴史がつまっている。

「鉄工所を営んでいた祖父が、輸入大豆の中から異物を取り除く機械を発明しました。その後、いろいろな方との縁を通じて父が納豆を作り出したのが始まりです。小さいころは、家業を継ぐとは考えていませんでした。納豆を疎ましく感じた時期もありました。自動車関連会社に就職し、職場に差し入れたときも『さすが納豆屋の納豆は美味しいなあ』と言ってくださるのを、社交辞令とは思っていませんでした。」

しかし、ある日の一本の電話が、転機となった。

「平成十六年に名古屋で全国納豆鑑評会が行われ、そこでうちの納豆が賞をいただいたのです。それを受け、ニュースで納豆を取り扱いたいので名古屋まで持ってきてほしいという連絡がテレビ局から入りました。」

折しも、父母は鑑評会に出席して不在だった。やむを得ず、山下さんが納豆を持って、名古屋まで走る事となった。このことがきっかけとなり、父の作ってきた納豆を改めて見直し、より多くの人に「山下の納豆」を届けたいという思いが生まれてきた。

「うちは北海道産の大豆を使っています。納豆にしたときに旨味のある大豆を探していった結果、渋みのある大豆にたどり着きました。色、形はもろろんのこと、美味しい納豆は、豆のやわらかさ、白粉、味、糸の引き具合、そして香りが大切です。早朝、工場に入っすぐ、発酵室からの香りです。その出来具合がわかります。」

父から学んだ技術と、それを抛り所にして積み上げてきた緻密なデータ管理をもとにして、新商品の開発に努めている。

「手作りのよさは、大豆の浸水時間を調節でき、程よいやわらかさの納豆ができることです。美味しい納豆を作り、鑑評会などで賞を取ってあげば、国産大豆の良さを証明になり、農家の方々の応援にもつながるのではないかと思っています。」

最近では、地元の後輩が地域の活性化をめざして立ち上げた「矢作大豆

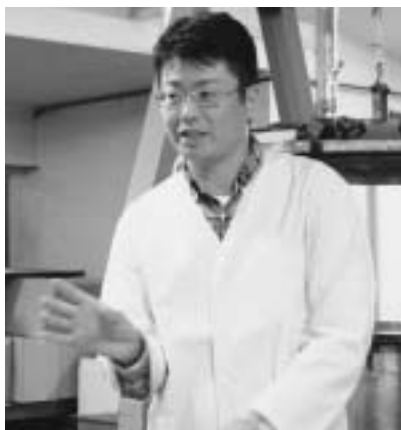
プロジェクト」に賛同し、中学生が学習の一環として作ってきた矢作大豆を納豆にした。

「地産地消を目的にしていますが、何より美味しい矢作大豆を皆さんに味わっていただき、地元が元気になるならと思って協力しました。粒がそろわず齷齪化できずに残ってしまった大豆も納豆にして、中学生の子供たちに食べてもらいたいと考えています。自分たちの作った大豆がどんな味になるのか、食して体感してもらうのが大切だと思うからです。」

そして、山下さんの思いはさらにふくらむ。

「納豆を通して、日本の伝統的な食文化を守っていきたいです。将来は納豆の枠を超え、それぞれの国に合った大豆の食提案ができればと考えています。」

山下さんの食と人をつなぐ道は、まだ始まったばかりである。



氏名 やました まさき
生年月日 昭和五十四年四月十一日
住所 岡崎市暮戸町

羅針盤

人間関係を築く力を 高める努力

翔南中学校長

加藤 政幸

いまだに許せないことがある。私は父の転勤で中学三年生のとき、山梨の小規模校から静岡市内の大規模校に転入した。初めての理科の授業で張り切って手を挙げた。指名された時に名前ではなく、「その転校生」と呼ばれ、私が答えると「田舎から出てきたのによく答えられたな」。級友は爆笑、先生も一緒になって嗤って（わら）いる。そして、私はその瞬間に理科の学習のスイッチを切った。

この先生は、理科指導では有名な先生だったらしく、専門誌にも投稿していることを自分が教員になって友人から聞いた。しかし、私は「教師は、教科指導のプロである前に、人間関係のプロでありたい」と思っている。子供の心をつかみ、人間関係を築くことができなければ子供を動か



表現の喜びを子供たちに

矢作西小 梅村奈津子

今年の三月まで青年海外協力隊の一員として、エジプト・パレスチナの子供たちに図画工作科を教えた。

エジプトの小学校では、図工の時間の後に、子供たちが絵を捨てていく光景を目にした。床に散らばった絵を見て、打ちひしがれた。

私の指導は、散々にされた絵との対面から始まった。子供たちにとって、私はどこか遠くの国から来た人であり、心の距離は遠かった。なかなか話を聞いてもらえなかったり、言葉もうまく通じなかったりした。とにかく私は、子供たちとの距離を短くし、表現することの楽しさを実感してほしいという思いを持った。そこで、「できたよ」と絵を持っていく子供たちに、「この子の表情がいね」、「木の模様までしっかり描けているね」と褒めるようにした。そ

して、絵を通して「ここはどこ」、「これは誰」という簡単な言葉で対話をするように心がけた。褒められたり、会話したりすると子供たちはうれしそうに顔を見せた。

それまでエジプトの子供たちは、自分の絵を飾られたことがなかった。校長先生の許可をとり、壁面に作品を飾ることにした。子供たちは、「ぼくのもの」、「私のも」と、飾られることに喜びを感じているようだった。日本では当たり前前に飾られている子供たちの絵である。しかし、現地の子供たちの様子を目にして、改めて自分の作品を見てほしい、表現したい、認められたいという気持ちの強さに気づいた。

エジプトの小学校に赴任してから四か月が過ぎたころ、授業の導入で手遊びを行った。手遊びを行うことで少しずつ心がほぐれていったようだった。少しずつ子供たちの間に楽しい時間を作ることができるようになってきた。「今度の図工は何をするの」と図工の時間を楽しみにする声もよく耳にするようになった。

そして九か月後。「春香祭」という卵に絵を描く行事にちなんだ授業を行った。卵型に切った紙に絵付けをしていくというものだ。まず、黒板に五種類くらいの模様を提示した。初めは、真似をする子供もいたが、何枚か描くうちに新しいアイデアが

子供たちにわいてきた。楽しそうにどんどん絵を描いていく子供たち。「もつと紙ちようだい」、「こんなのもできたよ」と描けた絵をうれしそうに見せにくる。私は、ひたすら子供たちの描いた卵を掲示していった。表現する楽しさを味わう姿を見て私も嬉しくなった。

二年が過ぎ、私は海外での活動を終え日本に戻ってきた。協力隊での貴重な経験をこの岡崎で生かしていきたいとの思いから、今、勤務先の図工室でエジプト・パレスチナっ子展を開催しようと計画している。日本から遠い国だが、エジプトやパレスチナの子供たちと日本の子供たちを繋いでいきたいと思う。



すことはできない。

また、同僚との関係においても、「あの先生は力はあるんだけど、周りとうまくやれなくてねえ」との言葉を聞くことがある。この人は何をもって力があると言っているのかと思う。学校はチームで教育をしていくところ。それなのに、周りとうまくやれないということはそれだけで力はないのではないだろうか。

生徒指導では「生徒理解が大切」とよく言われる。しかし、本当の生徒理解とは、外見や言動で安易に生徒を判断してしまうのではなく、生徒が自分自身のことを、どう考え、どう思っているのかを分かってやることだと私は思う。

これは、本当に難しいことであるが、私の出会った人間関係のプロトと想われる先生は見事にこれができていた。そして、生徒からも教員からも信頼されていた。また、尊敬する先輩校長は教職員に対し本当の「教職員理解」ができていた。

ここで大切なのは「相手の視点に立とう」とする心なのである。

私自身のことを考えると、まだまだ本当の生徒理解も、教職員理解もできていないが、生徒、教職員と共に人間関係を築く力を高める努力をさらに続けていきたいと考えている。

市民の生活を守る



～岡崎市消防本部の活動～

▲ 24時間体制で市民の生活を見守る通信指令室

岡崎市のほぼ中央、国道一号線沿いに位置する岡崎市消防本部（中消防署）は、常時二十人以上の職員が待機し、岡崎市内で発生する火災、救助、救急、災害支援などの活動に備えている。また、あらゆる災害に対応するため、専門的な知識・技術を身につけた特別救助隊員も常駐し、迅速な活動ができるよう、日々の訓練を積み重ねている。

岡崎市消防本部には、全国で一台しかない全地形対応車両（レッドサラマンダー）が総務省より無償配備されている。平成二十六年、岡崎市消防出初式消防訓練の折、この全地形対応車両の機能や性能が披露され、マスコミにも取り上げられ、注目された。他にも被災地等で隊員の長期滞在を可能にする特別支援車両（友都道府県に一台）や、道幅の狭い住宅密集地でも消火・救助ができる高所活動車、各種救助事象に対応できる救助工作車などさまざまな車両が配備されている。また、全国一の長さを誇る五十五メートルはしご車も近く導入予定である。

消防署の活動内容は多岐に渡っている。市内の救援・支援の日常的活動はもちろん、大規模災害への部隊派遣、様々な事象に対応するための各種訓練、救命救急法や防火管理等の講習会の実施、防災意識を高めるための少年消防クラブによる消防体験、さらには出初式・観閲式など、年間を通して様々な活動を行っている。これだけ多くの活動を展開する目的は、救助率を上げること、自分たちでできることは自分たちでやるうという自主防災の技術や意識を広めることにある。

東海大地震がいつ来てもおかしくないとされる現在、岡崎市民の「安全・安心」に万全を期す消防署の活動への期待が高まる。

レッドサラマンダー



連結式のゴム製クローラ方式車両で、あらゆる災害現場への人員・物資の搬送や救助救援活動を鑑み、荒地、不整地、段差、溝、土砂上、瓦礫などの一般車両では走行不能と思われる災害現場や、水溜り等の障害に対しても特別な装備品等を装着することなく走行が可能な、全地形対応型の災害現場活動対応車両である。

車両諸元	
全長	8 7 2 cm
全幅	2 2 6 cm
全高	2 6 6 cm
車両総重量	1 2 1 3 0 kg
乗車定員	4人（前）+6人（後）
総排気量	7 2 4 0 cc
出力	2 2 4 kw / 2 2 0 0 rpm
最高速度（舗装路）	5 0 km/h
最大登坂能力	5 0 %
走行可能側面傾斜角度	3 0 %
垂直面乗越え高さ	0.6 m
乗越え溝幅	2 m

昨年度火災・救助等出動件数

火災 150件		救助 120件	
出動場所	出火原因	出動理由	
建物火災 76件	放 火 61件	火 災 10件	
林野火災 10件	たき火 22件	交通事故 42件	
車両火災 10件	たばこ 15件	機械事故 4件	
その他 54件	こんろ 14件	建物救出 33件	
	配 線 4件	水難事故 3件	
	その他 34件	その他 28件	

※ 昨年の火災発生原因の一番が放火であり、一昨年の19件に比べ3倍ほど増加し、連続不審火の影響を受けている。
 ※ 救助としての報告は年間120件であった。しかし、救急車の出動回数は14,873件であり、安易な救急車の要請が増加している。

各種訓練



▲ 水難訓練

式典・行事参加



▲ 岡崎市消防出初式

各種訓練

岡崎市地域防災訓練
 特殊災害訓練
 中高層建築物火災防ぎょ訓練
 土砂災害防災訓練
 緊急消防援助隊出動訓練
 防災航空夜間離着陸訓練
 水難訓練

火災・緊急支援の活動



▲ 事故現場での救急

市内の主な式典・行事

岡崎市消防出初式
 岡崎市消防団連合観閲式
 家康行列警備
 滝山寺鬼祭警備
 岡崎市花火大会消防警備

広報的イベント

(防災意識を高める活動)
 消防ひろば
 少年消防クラブ
 幼年消防クラブ
 防火作品展



▲ 少年消防クラブ



▲ 東日本大震災の支援活動

生活を守るための日常的活動

24時間待機、消防・救助・救急活動
 一人暮らし高齢者住居訪問
 身体障がい者住宅防火訪問
 歳末消防特別警戒および消防特別巡回
 市内各事業所消防巡回
 災害活動支援 (東日本大震災など)

年間の主な講習会

危険物取扱講習会
 防火管理講習会
 救命救急法講習会
 婦人自主防災クラブ研修会
 機械器具取扱講習会



▲ AED講習会



▲ 岡崎市消防音楽隊



▲ 小学校への訪問



▲ 救命救急法講習会



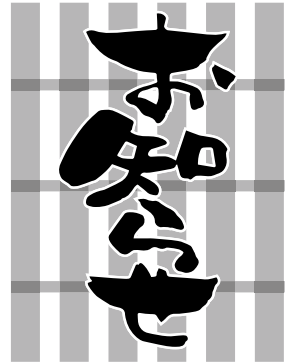
▲ 機械器具取扱講習会

イベント・広報活動

各種講習会

◆平成26年度授業力・教師力アップセミナー「基礎編」

月日	教科・領域	会場	開講式 閉講式
7/30	国語（書写）	岡崎市民会館 （集会1号室）	9:00 12:20
7/31	社会	常磐小学校 滝山寺、ガラ紡工場遺跡等、りぶら	9:20 15:30
7/30	算数・数学	竜美丘会館（501号室）	9:15 11:40
7/31	理科	細川小学校	9:00 12:00
7/31	生活	総合学習センター （教育研究室2）	9:30 11:50
7/31	総合的な学習	総合学習センター （小ホール）	9:10 12:00
7/30	音楽	総合学習センター （小ホール、教材開発室1・2）	9:30 12:00
7/30	図工・美術	総合学習センター （教育研究室2）	9:30 12:00
7/31	保健体育	北野小学校（体育館）	9:00 12:00
7/31	家庭科 （小学校）	大門小学校（家庭科室）	8:50 13:00
7/30	技術・家庭科 （技術・家庭分野）	太田油脂株式会社 （岡崎工場）	9:30 11:50
7/30	英語	南部市民センター （体育集会室）	9:30 12:20
7/30	道德	総合学習センター （教育研究室1）	9:15 11:50
7/31	特別支援教育	社会福祉法人 愛恵協会	10:00 11:50
7/31	学習情報	葵中学校（会議室）	9:15 16:00
7/31	学校図書館	図書館交流プラザりぶら （会議室303）	9:30 11:30
7/31	学校保健	市民会館（集会室）	9:30 11:45
7/30	生徒指導 （不登校）	岡崎市教育相談センター	9:15 11:45
7/31	生徒指導 （問題行動）	総合学習センター （教育研究室1）	9:10 11:50



●授業力・教師力アップセミナー

今年度も、夏期休業中に授業力・教師力アップセミナーが開催される。

「基礎編」については、左の表のように、十九の研修会が設けられている。



各教科・領域の基礎的な知識や技能を習得したり、授業を適切に進めたりする力が高まることを目的としている。

「応用編」は、「岡崎市免許状更新講習」の選択講習と同じ内容で行っている。今年度は、八月五日、六日、七日の三日間

にわたり、新たに「幼児教育」を加えた二十八の講座が設定されている。「応用編」については、開講式の時間は、一律八時五十分である。



▲H25年度 基礎編（学校図書館）

●ハートピアだより

自分の足で、一歩ずつ

本年度は、教育相談センター所長補佐と室長、指導員二名が新しく勤務し、指導アドバイザー（臨床心理士）を含め、八名でスタートした。

四月九日から、通所受付を開始し、十一日から見学や面談を実施している。一学期末現在、二十三名が通所している。通所の在籍校は、小学校二校、中学校一校で、男子十二名と女子十一名で、少し男子が上回っている。その他に、五名が通所のための見学を終え、二学期からの通所を検討している。

五月下旬から、在籍校の担当者とは「ハートピア職員との情報交換会である「担任会」を随時実施している。この他に、通所の在籍校の校長先生や担任、不登校担当などの先生が、度々訪問し、通所に声をかけてくださっている。先生方が来所していただけることで、細かな情報交換ができ、学校とハートピアが連携して、通所生の支援をすることができている。

通所生の社会体験のために、

五月は、おかざき世界子ども美術博物館の造形教室でEBアートに挑戦し、個性的な作品を作った。また、六月は、おかざき自然体験の森に出かけ、壁掛けの制作や山道の散策をした。七月は、所内で七夕会を行い、みんなで協力して笹飾りをしたり、ゲームをしたりして楽しんだ。

七月十五日に、一学期ハートピア終業の会を行った。夏季休業を控え、教育委員会の岡指導主事に「情報モラル」の講話をしていただいた。

子供たちは、ハートピアの小集団での多くの活動を通して、少しずつ自信を取り戻している。これからも学校とハートピアが力を合わせて、通所生の成長を見守っていきたくと考えている。



1 内容
 本年度は、ニューポートビーチ市とウッデバラ市と交流をする。それぞれの都市に七名の生徒を派遣する。

2 受入・訪問日について
 ニューポートビーチ市
 受入 7/1(火)～7/7(月)
 派遣 9/24(水)～10/2(木)
 ウッデバラ市
 受入 10/23(木)～10/30(木)
 派遣 9/24(水)～10/2(木)

* 呼と浩特市について
 鳥インフルエンザ、大気汚染の心配があり、本年度も中止とした。

● 海外都市交流事業

◆平成26年度授業力・教師力アップセミナー「応用編」

【8月5日(火)】		
講習名	会場	講師
小学校国語科教育	総合学習センター教育研究室2	清松 治子
中学校社会科教育	総合学習センター教育研究室3	山内 貴弘
小学校算数科教育	総合学習センター教材開発室1	蜂須賀 渉
中学校理科教育	総合学習センター教材開発室2	小島 寛史
小学校音楽科教育	総合学習センター小ホール	麻場ちとせ
小学校図画工作科教育	子ども美術博物館視聴覚室	太田 幹雄
小学校体育科教育	総合学習センター第2会議室・体育室	小田 英宣
中学校技術科教育	新香山中学校パソコン室・木工室	近藤 善紀
中学校英語科教育	総合学習センター教育研究室1	太田 幹也
健康教育	総合学習センター第1会議室	中村 郁夫
【8月6日(水)】		
講習名	会場	講師
中学校国語科教育	総合学習センター教育研究室3	熊谷 清一
小学校社会科教育	総合学習センター教育研究室1	片桐 徹
中学校数学科教育	総合学習センター第2会議室	加藤 嘉一
小学校理科教育	総合学習センター教育研究室2	児玉 洋行
中学校音楽科教育	総合学習センター教材開発室1	三浦 敦子
中学校美術科教育	総合学習センター教材開発室2	長坂 博子
中学校保健体育科教育	藤川小学校図書室・体育館・図書室	野田 豊
小・中学校家庭科教育	大門小学校図書室・家庭科室	荒井 留美
小学校外国語活動	総合学習センター第1会議室	十河 幸代
保健室と養護教諭	総合学習センター教育研究室4	河合 美保
幼児教育	総合学習センター小ホール	本間 和代
【8月7日(木)】		
講習名	会場	講師
道徳	総合学習センター教材開発室2	石井 洋
特別活動・学級経営	総合学習センター第1会議室	戸澤 剛
生活科・総合的な学習	総合学習センター教材開発室1	堺 正司
情報教育	羽根小学校パソコン室	岡 秀之
発達障がい児の理解と支援	総合学習センター小ホール	武田 正道
生徒指導	総合学習センター教育研究室2	永野 光雄
保健	総合学習センター教育研究室1	小田 昌男



▲ H26年度 岡崎市派遣団員



▲ ニューポートビーチ市使節団 市長表敬訪問

姉妹都市 ニューポートビーチ市				
団長	矢作南小学校長	山口 和雄	副団長	東海中学校教諭 岡村 直美
団員	美川中学校3年	原田梨日子	団員	竜海中学校3年 牧野あさみ
団員	葵中学校3年	鈴木 開智	団員	岩津中学校3年 塚本将太郎
団員	矢作中学校3年	小島 良奈	団員	新香山中学校3年 森 陽香
団員	北中学校3年	荻野 竜匠		
姉妹都市 ウッデバラ市				
団長	南中学校長	栗田万砂夫	副団長	藤川小学校教諭 河合由起子
団員	城北中学校3年	宮本 竜鳳	団員	福岡中学校3年 岡田 樹
団員	常磐中学校3年	大地 那月	団員	六ツ美中学校3年 山本 彩加
団員	六ツ美北中学校3年	佐野 宏伸	団員	額田中学校3年 伊藤 颯汰
団員	翔南中学校3年	水野 詩子		

● 表彰

◆平成26年度「都市景観大賞」

(景観教育・普及啓発部門)

優秀賞 都市づくり推進センター 藤川小学校

◆平成26年「フラワー・コンクール」

学校花壇

奨励賞

形埜小学校

◆平成26年「フラワー・コンクール」

学校花壇設計図コンクール

愛知県知事賞 形埜小学校

東山動物園モデル花壇設計図コンクール

形埜小学校

・カ
ツ
ト
緑丘小 石川 依里

オリンピック開催記念大運動会 (昭和39年)

写真提供：連尺小学校

一九六四年、アジアで初となる東京オリンピックが開催された。日本に到着した聖火は、全道府県を通過させるため四コースに分かれ、炬火リレーとして東京に向かった。岡崎市でも多くの市民が日の丸の手旗を振って声援を送るなか、聖火保持者が市役所前の国道一号线を通過していった。

この年、連尺小学校で行われたオリンピック開催記念大運動会では、開会式で児童の聖火ランナー役と随走者が入場し、五輪ムードを一気に盛り上げた。

二〇二〇年、オリンピックのヘラ宮殿で採火される聖火が、五十六年の時を超え、再び日本にやってくる。岡崎の子供たちが選手として、ボランティアとして大会運営に関わり、活躍することを期待している。



消防署の全地形対応車両(レッドサラマングー)は、日本の中心、しかも津波等の被害を受ける心配がないという理由で、岡崎に配備された。マスコミに取り上げられ、一目見たさに遠方から多くの方々が中消防署を訪れるという。いざというとき、尊い命を救うため、高度救命資機材を装備した特別車両が災害現場に駆けつける。

シ オ ス ア

荳色すめいれにたなびく雲間から、緋色の太陽がすつくと顔を覗かせる瞬間は心が躍る。八月十一日が「山の日」として国民の祝日となった。山を愛する人がさらに増えることだろう。



大粒の納豆をご飯にのせ、美味しそうに頬張る子供たちの姿を思い出す。一年前の給食に出されたあの納豆は、すべて手作り、すべて手作業。あの日、ふっくらした豆に格別な味を感じたのは、「美味しい納豆を子供たちに」という職人の思いが、小さな器いっぱい詰まっていたからだ。そんな作り手の思いを子供たちに伝えていきたい。

アスファルトに陽射しが強烈に照りつける中、子供たちの元気な声が響き渡る。運動場では部活動の練習に汗を流す力強い姿がある。子供たちの体力には感心するばかりだ。新学期には一回り成長し、たくましくなった子供たちと会えるだろう。こちらも英気を養い、満面の笑顔で迎えたい。



* 知性を磨く 田坂 広志
光文社新書 ￥760

心に残った一文
「知性」とは、安易に答えの見つからぬ問いに対して、決して諦めず、その問いを問い続ける能力のこと

なぜ高学歴の人物なのに、深い知性を感じさせないのか。それは、答えのある問いに対して速く正しい答えを出す「知能」は高くても、「知性」があるわけではないからだ。本書には、知性の考え方や知性を磨くための手だてについて、分かりやすい例が並ぶ。
岡崎の小中学校が積極的に取り組んでいるESDにおいて、子供たちに付けたい力は知性である。自分自身や子供たちの知性を磨くために、参考になる内容であった。

* 学校珍百景 塩崎 義明
学事出版 ￥1,600
* 嫌われる勇氣 岸見 一郎・古賀 史健
ダイヤモンド社 ￥1,500
* きみはいい子 中脇 初枝
ポプラ文庫 ￥660
美合小 清水 範彦